

大会宣言

郵政産業労働者ユニオンは2019年7月4日から2日間、東京において第8回定期全国大会を開催し、一年間のとりくみの成果をさらに前進させる、新たなたたかう方針を決定した。

私たちの運動の柱のひとつは非正規労働者の均等待遇実現である。そのために組織をあげてとりくんだ労働契約法20条裁判は東京、大阪両地裁・高裁において画期的な勝利判決を勝ちとった。私たちのたたかいは、郵政の職場のみならず、全国の非正規の仲間を励まし、格差是正へ向けて大きな流れをつくり出した。その流れをより確かなものにしていくために、最高裁においてさらに前進した判決を勝ちとることをめざすとともに、勝ち得た成果を広く郵政で働く非正規労働者全体に広げていく新たなとりくみに一歩を踏み出した。

19春闘は「4年連続のベアゼロを許さない」との決意のもと、非正規の仲間を含む63名がストライキに立ち上がり、全国で創意あるたたかいが展開された。会社は増収増益であるにもかかわらずその回答は私たちの切実な要求にまともに応えるものではなかった。しかし18春闘で会社が示した「正社員の引き下げで非正規の処遇改善」という欺瞞的な手法を許さず、ねばり強い交渉を通じ、限定的ではあるが制度面での一定の前進を得た。この成果をさらに大きくしていくとりくみが必要となる。

日本郵政グループ3社の株式上場から4年目が経過し、会社はますます利益至上主義に突き進んでいる。株式売却も進められ、ユニバーサルサービスのみならず労働条件への影響も懸念される。公共サービスとしての郵政事業を守り、サービス低下を許さない運動を進めなければならない。

参議院選挙が昨日公示された。安倍政権下で非正規労働者が増加し貧困と格差は拡大している。国民に負担増が押し付けられる一方で、大企業は優遇策により内部留保は増え続け、富の偏在が加速している。民意に反する辺野古新基地建設の強行や原発再稼働を許さず、何より安倍首相のめざす憲法改悪を許さないために、立憲野党と市民の共闘で参議院選挙に勝利することは、安倍政権を退陣に追い込む絶好のチャンスである。

差別を許さず、まともな賃金を勝ち取り、安心して働き続けられる職場をつくるため、仲間を増やし、ゆるぎない組織を確立しよう。一人ひとりが大切にされ、人としての尊厳が守られる職場をつくり上げよう。

郵政ユニオンは、常に先頭に立ち歩み続けることをここに宣言する。

2019年7月5日
郵政産業労働者ユニオン第8回定期全国大会